

連携医療機関のご紹介

京ヶ瀬診療所 院長 島田 克己 先生

3回目の新型コロナワクチン接種が行われています。終りの見えないこのパンデミックは2年も続いており少し疲れてきたというのが本音です。

それにしてもCOVID-19という印象の薄い病名はどうなのでしょう。武漢コロナなどの方が分かりやすいのではないのでしょうか。病名に地名を付けるのは汚名を着せるようで好ましくないという意見はあります。しかしスペイン風邪や香港風邪、中東呼吸器症候群、エボラ出血熱などはみな地名由来の病名であり、その病気について容易に想像することができます。

京ヶ瀬診療所は旧京ヶ瀬村によって設立されました。診療所を開院して数年後、村との契約関係が解消したとき、そして診療所を移転新築したときに島田内科医院に名称を変更することを当然考えました。しかし設立時に村に大変お世話になったことを考え変更はしませんでした。さらに平成の町村合併の際には「京ヶ瀬」という文字を残してほしいという声を少なからずいただき現在に至っています。

名前(名称)は大事です。名前によって人はそれを考えたり理解したりします。50年後、100年後を考えたときCOVID-19という病名はあまりにも弱いのではないかと私は思うのです。将来必ずまた新しい感染症が人類を襲うことでしょう。今回のパンデミック騒動を未来への歴史的教訓とするために武漢コロナ、武漢肺炎など印象深い病名にすべきと考えています。



特別養護老人ホーム やすだの里 植木 政行 施設長

あがの市民病院及び阿賀野病院、ならびに市内各医院の皆様には、常日頃より大変お世話になりありがとうございます。この場をお借りし御礼申し上げます。

当施設には、特養やすだの里と併設して障がい者支援施設 宝珠苑もあり、高齢・障がい・疾患等がある様々な方がご利用され、体調が急変し受診することが度々あります。その度に、医療機関の皆様には、迅速かつ柔軟な対応をしていただき、心強く感謝しております。

また、あがの市民病院で『あがの介護・病院連携の会』を開催していただき、市内特養と病院との情報共有をすることができ、コロナ禍での施設の不安緩和やその対応の助言をいただいたうえ、施設の要望にも対応していただいています。

当施設はこれからも、医療機関・他施設や地域の皆様に、お力添えを頂きながら、ご利用される方々が安心して生活していけるよう、努めて参りたいと思いますので、どうぞよろしくお願い致します。



あがの市民病院 スワンだより



病院史を作成中です

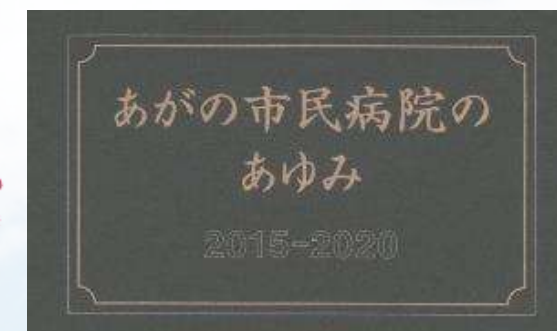
当院では、「あがの市民病院史」を鋭意制作中です。

あがの市民病院として2015年10月に開院してから、6年が経過しました。ひとつの節目として、2020（令和2）年度までの5年度分のあゆみを編纂していこうと、藤森病院長を委員長とした「病院史作成委員会」を令和3年10月に立ち上げました。令和4年3月の製本を目指し短い期間ではありますが、原稿や思い出の写真などを各部署から選出された委員のメンバーが集めてくれました。

これまで水原郷病院としては、平成7年3月に発行された「創立40周年記念誌」が最後ですが、現在も当時の貴重な資料として保存されています。

あがの市民病院の歴代病院長、副院長、事務長、看護部長、薬剤部長へ寄稿をお願いしたところ、皆さんから快く執筆していただきました。

各部署の業績や思い出の写真などを盛り込んだあがの市民病院のあゆみを連携医療機関などへ謹呈させていただきますのでご高覧いただければ幸いです。もう少しで完成します。発行が春と一緒に待ち遠しい今日この頃です。



あがの市民病院

〒959-2093

新潟県阿賀野市岡山町13-23 代表☎0250(62)2780

Eメールアドレス syomu@aganocity-hp.com

ホームページアドレス <http://www.city.agano.niigata.jp>



あがの市民病院

